

第3回 日本放送作家協会賞



**第1回受賞者**  
 企画賞  
 「日本の素顔」  
 の企画(NHK)  
 演出者賞  
 せんぼん よしこ  
 (NTV)  
 男性演技者賞  
 松村 達雄  
 女性演技者賞  
 黒柳 徹子  
 スポンサー賞  
 東京芝浦電気株式会社  
 東芝商事株式会社  
 TRG賞  
 和田 勉(NHK)  
 サンキュー賞  
 文化放送本社受付係  
 館野 淑子  
 (元東京放送受付係)  
**第2回受賞者**  
 企画賞  
 「兼高かおる世界の旅」  
 (TBS)  
 演出者賞  
 山田 智也(ABC)  
 大坪 都築(OR)  
 男性演技者賞  
 ハナ肇とクレイジー・  
 キャッツ  
 女性演技者賞  
 池内 淳子  
 スポンサー賞  
 株式会社資生堂  
 エスビー食品株式会社  
 TRG賞  
 「娘と私」番組関係者  
 (NHK)  
 サンキュー賞  
 東京新聞  
 「ラジオ・テレビ欄」

受賞者	
企画賞	中川 忠彦
演出者賞	ラジオ 田甫 一郎 テレビ 橋本 信也
男性演技者賞	芦田 伸介
女性演技者賞	大空 真弓
スポンサー賞	三共株式会社
TRG賞	「夫婦百景」スタッフ
サンキュー賞	東京放送劇団 ニッポン放送効果班
特別功労賞	故吉田 秀雄

# 第3回

## 日本放送作家協会賞



あいさつ

会長  
久保田 万太郎

新緑の風がくわしき本日ここに、各界諸氏のご賛同を得て「第三回日本放送作家協会賞」の授賞式典を行ないえますことは、私どものかぎりない歓びとするところであります。顧りみますれば、昭和三十四年九月十八日、本協会設立以来幾多の困難はございましたが、各界諸氏のご協力により、日一日とその地歩を固めて参ることができました。

昨年四月三十日には文部省より社団法人の認可もおり、装いもあらたに文化団体として生まれかわり各関係機関との文化交流に努力いたして参ったのであります。

そのかたわら、私どもの感謝のしるしとして、ささやかながらここに会員六〇一名の総意を結集、本日のめでたい授賞式典を迎えるに至りました。

なにとぞ、各界諸氏に於かれましては今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますよう……

ねがわくば、この女人像のかかげる「ふたば」の意をもつて、受賞者ともども歓びを分かちあい、明日のかがやかしき放送界発展のために寄与されんことを切にお願い申しあげ、私のあいさつといたします。

受賞者が

きまるまで



理事長 大林 清

(協会賞特別委員長)

第三回日本放送作家協会賞の授賞にあたり特に感懐を深くするのは、年ごとに、会員各位の間に、賞の権威を高め、放送文化の一大指標たらしめようとする気運が盛り上り、その熱意が外部に反映して、今やこの種の賞の中ではゆるぎない地位を占めつつあることでもあります。

今回も大綱については前回を踏襲し、昨年十一月協会賞特別委員会を設置、六百名余に及ぶ全会員に対し、二回にわたるアンケートを実施したのち、去る三月二十一日、最終選考委員会を開いて、別記のような各賞各部門の受賞者を決定いたしました次第であります。

その選考に際しては、例年のことながら慎重な上にも慎重を旨とし、決戦投票数度に及ぶこともしばしばであったばかりでなく、いやしくも末端の散票といえどもないがしろにすることなく、必ずこれについても忌憚のない論議を尽くしました。

幸い、受賞者各位からは心から喜んでいただきご同慶に堪えません。今後とも、この賞をより一層充実した意義深いものにしてまいりたいと存じますので、各方面のご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。

因みに、今回の最終選考に当った協会賞特別委員は次に掲げる十四名であります。

大林 清、北条 誠、西島 大、井出 昭、伊馬春部、大倉左兎、小沢不二夫、佐々木恵美子、寺島アキ子、前田武彦、村田修子、山下与志一、中山隆三、鈴木重雄



ありがたく頂戴

中 川 忠 彦

(NHK)

まことに月並みな申し方ですが、全く思いがけない賞をいただくことになり、ひたすら有難く恐縮しております。もっと若い有能な方々が多く居られるであろうのに、と思っております。

頂戴するのは「企画賞」と申すのだそうですが、元来放送の企画というものは一人で出来るものではなく、多くの協力者を得てはじめて実現されるものであります。そして、その一番の協力者は、いうまでもなく放送作家の諸先生方であり、ます。私の貧しい企画がいくらかでも実を結んだとすれば、その与えられるべき栄誉の大部分は、協力して下さった作家の方々のものと思うのであります。その意味で私の頂戴する賞は作家の方々と共にいただくものと思っております。有難くお受けする次第であります。

ありがとうございました。

## ■ 中川忠彦氏

北 條 誠

中川忠彦さんとは、実に、実に長いつきあいである。終戦直後の連続放送劇「わが家の平和」そのすぐあとの、例の「向う三軒両隣り」以来で、よく語り、よく飲み、そしてほんの数回だが喧嘩もした。今日までれんめんと交遊がつづく所以は、一に中川君の寛容による。海老蔵そっくりの美貌に似ずベランメエで喧嘩ッ早い中川君が、どうして、いつも寛容を守ってくれたか不思議でならないが、それだけ感謝は深い。いづれにせよ「忠ベエ」と書かないと、実感の出ない仲である。

「忠ベエ」はその長い間、スタジオオ一途に通じて来た。僕の記憶では、ほんの一年程、脚本課長として現場をはなれたが、その他はつねにNHKのラジオ・スタジオオとともにあった。大した根気であり、情熱である。上に「馬鹿」の二字のつく一途さだ。「馬鹿」のつく人間は今日此頃は、作者、俳優、演出家、いづれに於ても殆ど見られなくなった。その点「忠ベエ」は、まさに貴重品である。往年の美貌はおとろえたが、仕事の熱はいよいよ高く、今回の受賞対象となった「架空実況放送」「佐渡夢幻曲」の如き、老巧と新鮮と兼ね備える。脱帽するばかりだ。演出をふくめて大きく企画賞を贈る事に協会が決定したのは、当然すぎる事で、むしろ遅きに失する。旧い友人としてもうれしい限りだ。テレビ屋で気むづかし屋の「忠ベエ」は迷惑がるかも知れないが……：われわれの拍手を黙って受けたまえ。本当にお目出とう。

### 中川忠彦氏略歴

大正元年東京生れ。昭和8年文  
化学院卒。同年NHKに入り文  
芸部演芸課で久保田万太郎氏の  
指導を受ける。戦後、過労のた

め三年間病床にあったが、復職  
後、菊田一夫「さくらんぼ大  
将」「君の名は」北村寿夫「笛  
吹童子」などの企画をした。そ  
の後、脚本課長、演劇課長など  
を経て現在に至る。



感想



田甫一郎 (NHK)

この頃でこそ、「演出、何のなにがし」と名乗りをあげるようになり、また、字幕にも出るようになったけれども、私が演出課員になった頃、十余年前は、酒場などでは、――あなた放送局の出演課でしょう。あたし、一度出演させてよ――などといわれたものです。

簡単に、放送に出られると思ひ込んでゐる無智は別としても、演出の仕事はタレントの出演係と勘違いされるのには、当時、部屋の一隅に交渉課というのが同居して居り、それと混同したのかも知れないが、情なく味気ない思ひでした。家のおばあちゃんなど何時も――演出というのは縁の下力持ちだね――と暗にアナウンサーを転向したことを非難する口ぶりです。

また、やはり、その頃のことですが、ある中堅の新劇俳優から、演出無用論をぶっかけられて呆然としたことを憶えています。彼によれば、芝居は脚本と役者が揃っていれれば上る、という論法で当時駆け出しの私は釈然としないものを感しながら肯かざるを得ませんでした。

今度、放送作家協会から演出賞を、そんな私が頂くので人一倍、力づけられる思ひです。家のおばあちゃんももう縁の下力持ちとはいわないでしょうし、酒場の彼女からはちゃんと呼ぶられることでありましょう。

田甫氏行状の一部

筒井 敬介

田甫一郎氏は、しばしば録音を中止して、俳優に「自習時間」を与えられる。

スタジオへは行っていくと、俳優たちの間で、無駄話してもしたが、さりとて、先生がああしておいでなのに、という、もじついたぶんいきが察せられる。「ああ、また田甫教室の自習時間か」と、気がつく。ガラスごしの調整室では、田甫演出氏が、ごしごしと赤青鉛筆を、台本上にぬりたくっている。ために、台本の紙が破れることなど、意に介さない。

かけもち時間を気にするような俳優の間では「演出プランなんか、家でやってくればいいのに」という声も聞かれる。だが、私はそう思わない。舞台にくらべて稽古時間のごく短い放送劇の場合、演技の限界を見極めることは、いよいよ難かしい。その上、田甫演出の注文は、まことにうるさいばかりでなく、表現としては、仰天するドグマに近いときもある。そこまで近づこうとする苦勞はあっても、行けないときもあるし、あらゆる方向で効果が生まれるときもある。

こうした場合、田甫演出は、一たん俳優に「自習時間」を与えておいて、プランの再編成を、赤青鉛筆で行なうのである。

作者には、特に脚色の場合「宿題問題」が与えられる。「私見ですから、お気になさらずに」と、しわだらけの小紙片をお渡し下さる。書かれてあるのは、脚色の方向づけばかりか、ときにはハコガキに近いものもある。見識のある作者は、田甫プランと自分のプランの間にはさまって、応用問題を解くわけである。要するに、周囲を怠けさせない人である。

では、ご自分が怠けたいときは、どうなさるか。「わたくし、今日、また低血圧でして。よろしく」と、御帰宅になつてしまう。

田甫一郎氏

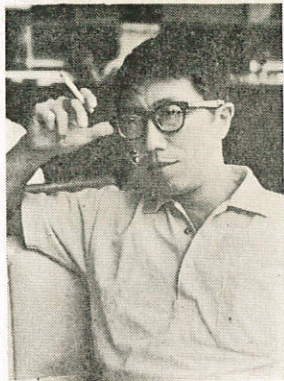
略歴

大正3年4月東京芝三田に生まれる。

東京市立一中を経て法政大学英语経済学部卒業。昭和16年4月、日本放送協会にアナウンサーとして入局。演出課員を経て現在、ラジオ文芸部員。

主要作品

昭和33年度芸術祭奨励賞「日本の天」  
昭和37年、イタリア賞「火の山」  
昭和37年、芸術祭賞「はらいそ」など。



ありがとうございます  
ございます

橋本信也  
(TBS)

まことにありがとうございました。貴協会の諸先輩に素直に御礼を申し上げます。

正直なところ、お知らせをいただきました瞬間には、ハテ? と思いました。37年度の年間賞であるとすれば、昨年一年間の私の仕事を受賞の対象の筈。「東芝日曜劇場」は、ここ数年のうちで最も少く五本、「おかあさん」も六本、ハテ? というわけでした。だがもう一つありました。菊田一夫先生の「あの橋の畔<sup>たもと</sup>で」です。これが五十二本、めて六十本になるわけです。「稼いだ賞」これなむめりと自ら納得したわけです。実験放送時代から既に十二、三年、殆んど毎日、飲むことを怠らず、スタジオに入り浸って暮らしてききましたが、この間、病気の多いものはついぞしたこともなく、我ながら丈夫にできている身体だと感心しております。この調子でいつまでもいつまでもスタジオにしがみついて生きて行く決心しておりますから、今後ともよろしく御願ひ申し上げます。

まことにありがとうございました。

## 正統派の演出

菊田一夫

橋本信也さんが、このたびテレビの演出部門で、放送作家協会の賞をうけられることになったのは、まことに喜ばしいことです。

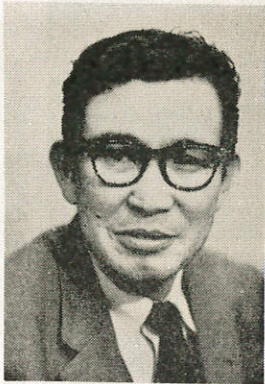
同氏はテレビの演出家として、いわば正統派の中堅であり、つねに手堅い仕事のやり方のなかで、奇矯を狙わず、一歩一歩「テレビドラマ」の可能性を高めて行くという行き方には、私も少なからず、頼もしさを感じていた者の一人でした。性格も温厚にみえながら、仕事の急所に至ると、一歩も妥協しないという芯の強さがあり、それが同氏の演出作品を、いつも信頼のおける骨のあるものにしてきたように思えます。最近では私の「あの橋の畔で」を担当され、よく整った画面構成のうちに、清新な感覚をも適度に盛り込んで、あのシリーズものを最高度に彩って下さいました。——この演出の成果が、今回の受賞の理由の一つになったことは、私にとっ

て二重の喜びでもあります。橋本さん、心から今回の受賞をお喜びすると共に、今後ともあなたのペースをくずさず、その正統派の仕事を推し進めて、よきテレビドラマの演出作品を積み重ねて行って下さい、衷心からそれを期待しています。

橋本信也氏の略歴



大正11年1月東京生れ。昭和24年慶応大学経済学部卒業、同年NHKに入社、30年6月までテレビ文芸部に所属。30年9月ラジオ東京に入社、現在テレビ第二演出部。主な演出作品は、北条秀司「姫重態」(昭和32年度芸術祭受賞) 里見淳「愛憎二つならず」(「うろこ座」) 松山善三「花曇り」 「末広」(何れも「東芝日曜劇場」) 菊田一夫「あの橋の畔で」 荻原葉子作・田井洋子脚色「女客」など。



いまのうちに

芦田 伸介

(劇団民芸)

このあいだのあなたの作品で相手役の女優さんが、「それは、小父さまの日和見主義よ」というセリフを、本読み・立稽古も終って、当日のカメラリハーサルでも「一ヒワミ主義よ」と平然と喋っていた。初めは、わざとシャレしているのかなと思っていたが、どうもそうでもないようなんです、おそるおそる、それは、ヒヨリミ主義よって言うんじゃないんですかと言ったら、ご丁寧にヒワミとふり仮名までふった台本をやおら開いて「あらそうなの、ヒヨリミ主義ってどんな意味？」と聞きかえされてしまった。そのくせ、その女優さんは稽古のとき、このセリフは言い難いし、納得がいかないといっって、どんどん自分流になおしてしまった。あなたがその稽古に立合っていたら、おそらく怒鳴

るか、泣きたくなったと思う。後でその作家に逢った時言ったら、「昔は俳優より作家に権威があったが、今はあべこべだな」と気弱く、あきらめとも軽蔑ともつかない皮肉をいって嘲っていた。まったく人ごとではないのである。僕らにしても作家が苦勞して書きあげた作品の思惟が文字と文字の間に秘められ伏せられているのを平然と見落し、まるで週刊誌を読むのとどこか似通った安易な態度で読み、同じように「書いてねエな」とうそぶき、納得がいかないなどと不適な言葉をはいて改訂し演じたことが何度あったろう。こんな安易な態度がいつのまにか僕の身に沁みついていたら、いまたいへんなことになる。いまのうちにトククリ反省しなければいけないことのひとつである。

■花のことば

正直いって、芦田さんが、ことし受賞することを予想していた人は、あまり多くなかったのではないか。実は、申しわけないが、私もそうであった。しかし、いざ受賞に決まってみると、これほど当然なことではないように思えて来る。心から、よかったと思う。

芦田さんは周知のように、劇団民芸に所属される舞台俳優であるが、数年前、不幸な交通事故によって、重傷を負われた。重傷というのも、単なる言葉のフヤではなく俳優としての寿命も終ったと伝えられる程の傷であったと聞く。じじつ、俳優がその看板である顔に負傷をしては、そう思うほうの早トチリとは言えないだろう。

西島 大

その間の芦田さんの苦しみは、第三者の私たちの想像を絶するほどのものがあつただろう。しかし芦田さんは、その試練に立派に堪えぬかれた。それが原因と言うつもりはないが、それ以後の芦田さんの演技の充実ぶりは、目をみはらせられるものがあつた。

いわゆるスターという人ではない。うわついた人気に取り巻かれる人ではない。私は、芦田さんの演技を見ていると、世阿弥の言った次の言葉が思い出されて来る。

「ただ、誠の花は、咲く道理も、散る道理も、心のままなるべし。されば、久しかるべし」

芦田さん、ほんとおめでとう。

芦田伸介氏の略歴

大正6年松山市生まれ。東京外語馬語中退。戦前満洲放送劇団で森繁久弥等と活躍。戦後苦難を越えて引揚げ「文化座」客員を経て、24年「劇団民芸」に入団、現在に至る。舞台のほか映画・テレビでも活躍している。「七人の刑事」(TBS)のデカ長役は最も当り役。その他「女の薨」(いろはにほへど)(TBS)など。



七人の刑事「ひとりもん」より(TBS)



おもうごと

大空真弓

(東京映画)

何しろ嬉しくて嬉しくて仕方がありません。電話でこの吉報を聞いた時は、びっくりして二度聞き返してしまいました。本当に思ってもいなかっただご褒美、とっても嬉しいのに何だか家の人に告げるのがテレくさくさって、電話をおいてからしばらく考えていましたが良い考えも浮ばず、『何だか良く判んないけど作家協会の37年度の演技賞が決まったんですって……』  
 そいで私にくれるんですって……困っちゃったナ』なんて、訳の判んない様な事をいってしまいました。一人でしみじみとその嬉しさにひたっている内に、何だかとても申し訳の無い様な気がしてきました。だって、本は作家の先生方が書いて下さるし、その中から私に合う役をプロデューサーが選んで下さって、それをどうという風に

■大空真弓さん

私が大空さんの存在を知ったのは、テレビであることはいうまでもない。「忍ぶ川」その他を見ていて、実に新鮮なタレントだと思っただ。表情も生き生きしているが台詞が非常にしっかりしていると思っただ。

それで昨年から連続ラジオドラマ「この道を行けば」を書くにあたり、大空君を頭において、「響」という人物を作った。

最初の本読みを聞いて、案の案、非常に柔軟である。感情を急激に転換させることができるし、それにつれて口もよく動く。

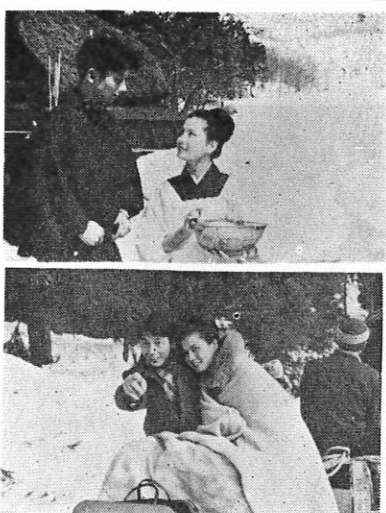
映画界に、これだけのかくれたタレントがいたということが、不思議に思えるくらいであった。映画のスターは、テレビには使える

内村直也

が、ラジオは概してだめだ。台詞の訓練ができていないからである。女優では、香川京子さんがその中の異例だと思っただ。大空さんもまた異例であった。スタジオで大空さんと話してみたら、

「あたしは本当は、ラジオが演りたかったのです」という意味のことをいった。喋ることに興味をもち、同時に自信もあつたのだろう。こういう人はいまだき珍しい。

今後、ラジオ、テレビ、舞台、映画等、あらゆる面で活躍するだろうが、この柔軟な台詞を、どこまでも生かして、魅力ある大女優になつてもらいたい。



「忍ぶ川」妙高ロケで山本勝と。

大空真弓さんの略歴

昭和15年3月10日生れ。東京都出身。昭和32年11月新東宝入社。37年9月東京映画に入社現在に至る。印象に残る出演映画は「いかなる星のもとに」とのこと。テレビの主な出演作品は、「忍ぶ川」「秋津の宿」「カミさんと私」「おゆき」「女の醜」(いずれもTBS)など。





## 夫婦百景

(日本テレビ)

スタッフ			
緒方 勉	小野 道子	春山 和典	加藤 輝男
加藤 輝男	加藤 輝男	加藤 輝男	加藤 輝男

## ご挨拶 緒方 勉

(芸能局演出部長)

この番組は内容的にも演出手法の点からも、大変地味な番組で、今回の受賞は分に過ぎた光栄でございます。

最初獅子文六先生の夫婦百景十六話の原作から始めまして、その後いろいろな作家のオリジナルへ移行したのですが、実話を主体にして脚本づくりをする、当初からの意図は今でも変わりなく続けております。

この五月で五周年を迎える訳ですが、それに先立っての受賞なので、制作スタッフにとっては盆と正月がいっしょに来たようで、全く感激の極みです。然しこの栄誉の大部分は今日まで満五年の間、労を惜しむことなく私共に協力して下さっている作家の皆さんと、いつも面白い演技を見せて下さる俳優の皆さんに負う処が多いことを附記してご挨拶に代えさせていただきます。

## 「夫婦百景」に拍手!

山下与志一

日本テレビの「夫婦百景」も、この四月二十九日で二百六十回を迎える。

満五年である。獅子文六氏が「主婦之友」に連載した原作は十六話しかないから、アトはすべて脚本家の作った「夫婦二百四十四景」ということになる。

名作、凡作の区別は、視聴者に任せるとして、時間、スタッフ、スポンサーが五年間変わらないという番組も近頃では珍しい。

緒方勉、小野道子、春山和典という演出陣も不動である。ホーム・ドラマは米の飯である——とは、NTV阿木芸能局長の名言であるが、これをそのまま実行して、ほかに「ママちょっとときて」「ねえさんと私」「教授と次男坊」等のドラマも出来た。つまり、茶の間に民放のホーム・ドラマを安定させたわけだ。

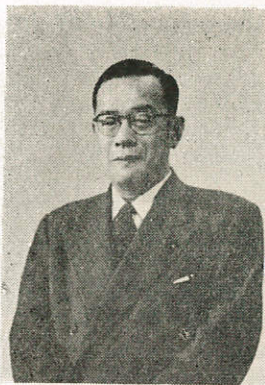
推理もの、よろめきもの、刑事もの、メロドラマ……けたたましいなかで、地味で着実な線をたどってきた。

此後も「夫婦千景」「万景」とつづけるのではないかと？ 世間の夫婦が、それほど、それぞれにちがっているように。今回の受賞に、心からの拍手を贈りたい。



緒方勉氏略歴

大正4年4月生れ。札幌市出身。東京音楽学校卒業。NHK専属歌手を経て昭和24年NHK音楽プロデューサー、昭和28年7月日本テレビプロデューサーとして入社。現在日本テレビ芸能局演出部長。



社長 鈴木万平氏



三共株式会社

鈴木万平

(三共株式会社社長)

広告主の提供する放送番組でもっとも重要な問題は、放送における文化性と商業性の調和というところにあるかと存じます。しかし、この調和がなかなか難しく、ともすると商業性に片寄りすぎて一部視聴者の期待を裏切ることになったり、また文化性に走りすぎて、所期の目的を見失いがちになることが多いようです。番組を提供する広告主はこの両者のバランスをはかることを、放送局、代理店側にお願いしながら、常に大衆に奉仕することを考えなければならぬと思います。

正しい商業放送は大衆の経済的発展と生活の向上に寄与するとともに、国民生活にうまい知識をひろめることに貢献するものと信じております。

三共は民放発足以来こうした点に留意しながら、番組を提供して参った次第であります。思いがけずも放送スポンサー賞受賞に決定したと聞いて、非常に嬉しくまた意義深く感じている次第であります。

今後も三共では放送関係の皆様の御支援を頂きながら、ますます、すぐれた番組を提供するように更に努力をつづけて参りたいと思っております。

# CMでないCM

大倉左 兎

TBSが開局しました。当時はJOKR-TVと呼ばれていました。

その新しいスタジオで、新しい番組がスタートしました。同じ時、私の家に娘が生まれました。その子が片言をしゃべるようになりました。やがて、ヨチヨチと歩くようになりました。そして幼稚園に通うようになり、小学校へ上るようになりました。

TBS開局と同時に始まったその番組は、その七年の間、双葉十三郎氏の原案で全く好調に続きました。それが三共さんの「日真名氏飛び出す」でした。私は七年の間、のびのびと仕事をさせて頂きました。

三共さんは、作家に理解のある立派なスポンサーでした。これは私だけの感謝の意を表明したものに過ぎませんが……今度、協会員諸氏の圧倒的な支持によって、スポンサー賞を受賞されることになったのは、ひとり私だけでなく、三共さんの脚本を書いた作家が、みんな三共さんに感謝しているからだと思います。



「日真名氏飛び出す」TBSテレビ



「泣くなマックス」TBSテレビ



NHK第2新館屋上で

東京放送劇団



ありがとうございます

加藤 道子

劇団全員でいただけるなんてこんな嬉しいことはありません。3×9＝27、34人いますから仲よく分けましょう。

巖 金四郎

劇団員個人としてなら何人か賞を頂いたことがあります。今回のように劇団自体が賞の対象として選ばれたことに大きな意義があり発足以来二十二年来をふり返って感なきを得ません。ありがとうございます。

坂本 和子

このたびは本当にありがとうございます。これからもいいお仕事をいっぱいさせて頂きたいです。どうぞよろしくお願ひ申上げます。

山内 雅人

吾等一同今日の栄えある慶びを享受出来ますのは劇団諸兄姉ご努力の賜物です。今後は私共若輩の研鑽、精進を以ってこの光輝ある東放劇団を双の瘦肩に負わねばなりません。

木下 秀雄

この度のように普段お世話になり、ご指導をいただいている先生方から表彰していただくとは思っていません。本当に嬉しく、よろこばしいことと思っております。放送界を通じて唯一の伝統を誇る劇団として内外にその価値を問う折でもあり感謝に絶えません。

東京放送劇団

五つのオドロキ

伊馬 春部

現在三四名(男15女19)の偉容(?)を誇る東京放送劇団が発足したのは、まだ太平洋戦争にはなっていない。つまり、昭和十六年六月だったというからおどろかざるを得ない。その第一期生三〇数名のうち、今なお半数に近い人員が第一線に立ち、二期から五期にいたる新鋭・俊秀・才媛たちと助けられたり助けたり。『お手々つないで』大活躍しているのも第二のオドロキだし、あの美声の且つ一見、若々しい方々も、すると今は相当の……と指折り数えてみてガク然(シツレイ)とするのも第三のオドロキとすると、それにしてはその年令をさして感じさせない演技力(?)的的日常性は当然、第四のオドロキとなる。

始め『NHK』を冠していた劇団も、三十四年六月一日を以って自主団体として脱皮、一年毎に更新する優先出演契約の『劇団』として新発足してからも、足並み乱れずいよいよ和氣藹々(アイアイ)すきてちとタイアなしとする向きも無きにしも非ずだが、テレビジョンにも総進軍、華々しき存在を再ニンシキせしめたばかりか、舞台公演——この活動にも却って拍車加わったのだから、これまた第五のオドロキである。

まったく、戦後早々、白木屋ホールの「天狗三郎伝」にはじまり、俳優座劇場に進出している「大盗大助」までの間に八、九年を費していることをおもえば、昨三十七年にはイイノホールで「異」"「礼服」とつづけさまに二本もヒットをかつたばしたんだから、つくづく、劇団が年功を経つつ身につけた生活力というものをわざるを得ない。しかもその溢れるばかりのみずみずしさ。

東京放送劇団よ、いつまでも若く、いつまでもハツラツと……そしていつまでも結束固く……。オドロキの種を更に更に倍加してください。

劇団員

- 山田 清
- 巖 金四郎
- 小山 源一
- 内村 軍宏
- 須永 宏
- 篠田 久
- 武田 久
- 斎藤 雅人
- 山内 雅人
- 川久保 潔
- 今井 純
- 木下 秀雄
- 桜井 英一
- 関根 昭
- 三田 五郎
- 八木 光生
- 加藤 幸子
- 加藤 幸子
- 網島 初枝
- 中村 紀子
- 尾崎 勝子
- 渡辺 富美子
- 伊島 幸子
- 坂本 和子
- 吉田 雅子
- 木下 喜久子
- 新道 乃里子
- 幸田 弘子
- 黒柳 徹子
- 里見 京子
- 友部 光子
- 中村 恵子
- 白坂 道子
- 新井 均子



LF効果班のめんめん

ニッポン放送効果班

LF効果班	清	千秋
加納	米一	高原
光雄		
上野	修	大平
紀義		
神山	雄吉	大関
絃宇		
紙田	博人	福田
喜之		
南	二郎	松下
敏男		

お礼とお願い

加納 米一

此の度、ニッポン放送効果班に、賞を戴きました事を厚く御礼申し上げます。

私共のような地味な分野にお心をつけて下さいました放送作家協会の諸先生に、班員一同心より感謝致します。共に今後ますます躍進への努力を惜しまず、創意研究していきたいと思えます。又、更に班のチームワークを向上せしめ、よりよい条件と体制を生み出し、その素地の中よりご期待に背かぬ仕事をしたいと思えます。

私共の仕事は、特殊例を除いては、自から光彩を放つのではなく、その作品の中に、最も有効に設定され、使用されるという条件に恵まれなければ、その真価も最大には發揮されないであります。どうぞよい作品をたくさんお書き下さいまして、労苦をむしろ喜びとする私共効果班を泣かせて戴きたいと思えます。次代の放送F・Mにも新境地の一指針として一同闘志を燃やしております。

本当にありがとうございます。御礼やらお願いやらで、私共の受賞の言葉に代えさせて戴きます。

音に対する愛情の深さ

寺島アキ子

ラジオ・ドラマを書いているものにとって、効果音は、音楽とあいまって、本当に大切なものです。たった一つの効果音が、ドラマを生かしもし、殺しもするということは、誰もが経験していることでしょう。

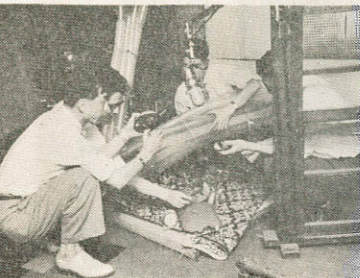
その意味で、私たちは、スタジオの隅で微妙な音づくりに励んでくださるすべての効果マンの方々に、心から「サンキュー」と言いたいです。

殊に、ニッポン放送効果班のかたがたの、音に対する並々ならぬ愛情の深さは、この局で脚本を書かれた方々にはよくおわかりのことと思います。

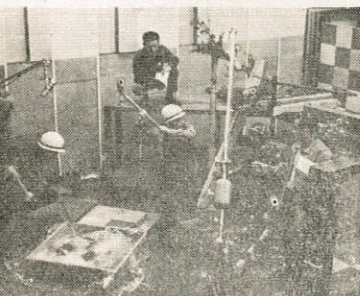
決して理想的とは言えない環境のなかで、加納米一さんというまるで音のために生れてきたような人を中心にして、しっかりチーム・ワークを組んだ若い人たち。その音作りに対する熱情には、本当に頭が下がります。

「叫び」、「ダム」、「金魚」と、ニッポン放送が、ここ三年連続で芸術祭のラジオ部門で奨励賞をとっていられるのは、この効果班の人々の蔭の力があってのことだと思えます。

日夜、音づくりに努力されているニッポン放送効果班の皆さん、本当にありがとうございます。これからもどうぞ頑張ってください。



カフカ「変身」の虫の音作り



昭和36年芸術祭奨励賞「ダム」



故 吉田 秀雄  
(電通前社長)

受賞に際して

日比野恒次

(電通社長)

今やラジオテレビは家庭生活の中に、完全に溶け込んでおりまして、その影響力の威大さはどなたも御存じの通りであります。

今回、電通前社長故吉田秀雄に対しまして、計らずも特別功労賞を賜りましたことは、私共電通人としては感謝に堪えません。故人は、終戦直後の混乱期に、電波の民間への解放と広告への結びつきを考え、激しい情熱を傾けて民放発足のお世話をした一人であります。当時を顧みますと現在の放送界は到底予想も出来ない程の普及発展振りであります。貴協会が例年番組制作に関係する方々の努力を讃えあるいは激励する褒賞制度を採られたことに對し深く敬意を捧げる次第です。皆様の貴重な努力によって、わが国の放送技術が急速に世界的なレベルに到達したことは、お互いに肩を抱きあって喜ぶたいことでもあります。来年は、いよいよ東京オリンピックの開催を迎えます。放送関係者が本當に国を挙げて協力し、

日本人の優れた才能を世界に示す絶好な機会であります。また日本の産業界に於いても、自由貿易による外国商品の進出によって激しい競争が予想されます。スポーツ界といい、産業界といい競争が激しい程故人はファイトを燃してゆく性格でありました。私どもは、今日の受賞に際し、故人の遺志を継いで、なお一層わが国の放送界のために微力を尽したいと思ふ次第であります。

■ 不滅の足跡

大林 清

電通前社長故吉田秀雄氏の輝かしい業績については、氏の生前から歿後に至るまで、あらゆる機会あらゆる場面に於て、数多くの讃辭が各方面から呈され、現にその余映いまだ絢爛たるものがある。

世に文化人という言葉がある。甚だ曖昧な捉えどころのない言葉で、狭義にも広義にも解釈出来るが、吉田氏こそ偉大な文化人の名を冠するにふさわしい人であった。

殊に戦後日本の放送界のめざましい発展の蔭には、昭和二十五年放送法案の成立に力を尽したのをはじめとし、同二十六年日本民間放送連盟の結成に主導的役割を果し、民放発足後の混沌期に、指導者としての不滅の足蹟を残して来た。更にこれに次ぐ民放テレビ各社の発足と、その後の急速な発展が、氏の勞に負うところ多大であることは、ひとしく江湖の認めるところである。

私ども放送に携わる作家としても、直接間接に氏の恩恵に浴するところすくなくぬものがあり、この機会に氏の功績を讃え、併せて深く感謝の意を表そうという趣旨から、今回の協会賞に特別功労賞の一部門を加え、これを氏の靈に捧げることになった。いわば吉田秀雄氏あって生れた特別功労賞であるが、今後は適時放送文化の功労者の顕彰にこの賞を贈って、私どもの協会としての微意を尽したい念願である。

- 37年4月
  - 文部省より社団法人の認可おり、第4回通常総会で、社団法人としての活動方針をきめる。
  - 第2回日本放送作家協会賞、7部門9者に授賞。第一ホテルで記念祝賀パーティ開く
- 37年6月
  - 37年度第1回理事会で、ラジオ対策特別委員会の設置きまる。
- 37年7月
  - 協会機関誌「放送作家」の第1回編集会議
  - 児童文化部会発足。
- 37年9月
  - 第4回理事会で北海道支部の設置、中部支部CM教室開講を承認。
- 37年10月
  - 放送文芸研究室第3期、CM教室第3期、それぞれ終了。
- 37年12月
  - 北海道支部発会。札幌で記念パーティ開催
  - 田井洋子作、テレビ映画脚本「せんせい」の無断改定で協会に提訴。大映と折衝、解決
- 38年1月
  - 第17回文部省芸術祭、ラジオ・テレビ部門受賞きまる。
  - 事業協同組合設立準備委員会、誕生。
  - 民放テレビ4社と「構成ものの定義と料率」「学校放送における再放送料」など話し合う
- 38年2月
  - 内村直也作、ラジオドラマ「マラソン」第4回毎日芸術賞放送部門で初の受賞。
- 38年3月
  - テレビドラマ「咲子さんちよつと」映画化の著作権侵害問題で松竹と折衝、円満解決。
  - 放送作家と民放局制作担当者との懇談会、「ラジオの会」第1回会合を開く。
- 38年3月
  - 放送文芸研究室第4期生、CM教室第4期生、巣立つ。

□発行 社団法人  
日本放送作家協会  
中央区銀座西8-10  
電通西別館第4号  
■(571)0882・0278

□編集 大倉左兎  
窪田耕一  
赤木洋一

表紙写真 藤沢修

# 体の疲れ・神経の疲れに

# ビオタミン

無臭・持続性の新型活性ビタミン



ビオタミンは、筋肉にも神経にもゆきわたり長時間働きつづける、三共の新型活性ビタミン。現代人の疲労をとる強力保健剤です。

疲れ・肩こり・神経痛・便秘に

5mg錠 30入 (180円)  
100入 (500円)  
300入 (1,350円)

ほかに25mg錠/50mg錠/散

